

さしのべよ
不自由な人へ
あいの手を

—福祉標語入選作品から—

笠間市社協 宍戸支部だより

第115号

平成28年6月10日発行

発行 笠間市社協宍戸支部長 伊東 勝男
編集 宍戸支部広報委員会
印刷 大塩企画

施策

- 1 地域住民とともに社協活動への理解を深め、会員の確保に努める。
- 2 区長会、民生委員児童委員協議会、まちづくり宍戸塾及び防犯連絡協議会との連携を強化する。
- 3 笠間市社協との連携を強化し、他支部との交流を進める。
- 4 資質向上に資する「研修会、視察研修」等を実施する。
- 5 児童福祉事業の充実を図る。
 - (1) 小学校との連携を密にした「三世代交流事業」への協力
 - (2) 子ども会、スポーツ少年団活動等への援助
 - (3) 学童育成に対する援助活動
 - (4) 地域の教育環境整備及び登下校見守り活動に協力
- 6 北山公園桜まつりに参加協力する。
- 7 友部公民館「出前講座」に参加協力する。
- 8 社協宍戸支部会館を会場とする「介護予防の運動・体操教室」に協力する。
- 9 各専門委員会の事業
 - 【1】青少年健全育成委員会の充実を図る。
 - (1) 青少年健全育成及び安心して住める地域を目指す「地区懇談会」の開催
 - (2) 「ものづくり・食事づくりわくわく体験」実施
 - (3) 通学路沿いの清掃・美化活動に取り組む
 - 【2】女性部事業の充実を図る。
 - (1) 高齢者を対象とした毎月1回の「配食サービス」を実施
 - (2) 福祉意識高揚を目指した「福祉バザー」の開催
 - (3) 女性部員の特性を生かした「手づくり会」の実施
 - (4) 福祉施設でのボランティア活動の実施
 - (5) 資質向上に資する「研修会、視察研修」の実施
 - 【3】こぶしの会を充実し福祉事業をさらに推し進める。
 - (1) 「配食サービス」時、高齢者との交流活動の実施
 - (2) 高齢者によるグラウンドゴルフ等各種行事に対する援助活動の実施
 - (3) 「ししどサロン」を開催し、より充実した高齢者福祉を推進
 - (4) 高齢者を対象とした市外研修会「自然観察会」の企画・運営
 - 【4】広報委員会の充実を図る。
 - (1) 「宍戸支部だより」第115号～117号の発行
 - (2) 「研修会・視察研修」への積極的参加
 - (3) 広報関係諸団体との交流促進

支部役員

支部長	伊東 勝男	中町
副支部長	羽生 力	松山南団地
同	山本 弘子	大田町2
同	和田 博美	松山団地2
同	森田 和美	旧陣屋2区
会計	関 令子	橋爪2区
同	佐藤 澄子	星山
監事	瀬谷 雅彦	松山団地3
同	桑島 健	南小泉2
同	山本 信子	旧陣屋3区
顧問	寺内 寛	大田町1
同	高野 光徳	大田町2
同	桑野 郭延	八反山
同	幾浦 忠男	旧陣屋2区
同	根本 芳雄	大田町2

支部委員と各種専門委員は2面に掲載



▲代議員会(4月23日支部会館で)

方針

笠間市社協宍戸支部は、笠間市で唯一活動の拠点である支部会館を持っていきます。当支部はその利便性を十分に生かし、青少年健全育成委員会、女性部、こぶしの会、広報委員会などの専門委員会が中核となり、子どもから高齢者まで幅広い事業を推し進めてまいります。

今後さらに、組織を充実し各関係機関、各種団体との連携を図り、宍戸地区の皆様との力を得ながら、地域に密着した事業を推進してまいります。

平成28年度

四月二十三日、熊本地震の余震が収まらないという報道が続く中、宍戸支部代議員会が行われた。会の冒頭で、出席者全員が熊本地震の犠牲者に黙とうをささげた。本年度は役員改選がなく同メンバーで臨

む二年目に、支部長はより質の高い充実した活動を進めたいと意気込みを示した。災害ボランティアの経験を持つ市社協の小池次長は、来賓あいさつのなかで、地域づくり・仲間づくりの必要性を語った。

充実の二年目、より質の高い活動を大切にしたい地域の人のつながり

代議員会

平成27年度 決算報告 自H27.4.1～H28.3.31

収入の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	増△減
繰越金	81,550	81,550	0
還元金	900,000	877,000	△23,000
助成金	165,000	162,700	△2,300
寄付金	10,000	10,000	0
雑収入	450,000	452,148	2,148
合計	1,606,550	1,583,398	△23,152

支出の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	増△減
会議費	15,000	12,498	△2,502
事務通信費	10,000	9,874	△126
事業費	1,530,000	1,434,076	△95,924
雑費	30,000	0	△30,000
連絡調整費	10,000	15,232	5,232
予備費	11,550	0	△11,550
合計	1,606,550	1,471,680	△134,870

収入合計1,583,398円-支出合計1,471,680円=残金111,718円 次年度へ繰り越し

平成28年度 予算書 自H28.4.1～H29.3.31

収入の部 (単位:円)				
項目	本年度予算	前年度予算	増△減	付記
繰越金	111,718	81,550	30,168	前年度繰越金
還元金	880,000	900,000	△20,000	会員会費還元金(会員会費助成額)
助成金	163,000	165,000	△2,000	福祉コミュニティ助成金 50,000 広報助成金 88,000 宍戸小PTA助成金 25,000
事業収入	448,500	-	448,500	福祉バザー収益金 桜まつりバザー収益金 女性部手づくり収益金 配食個人負担金
寄付金	10,000	10,000	0	地域からの寄付金 他
雑収入	1,500	450,000	△448,500	利子 他
合計	1,614,718	1,606,550	8,168	

支出の部 (単位:円)				
項目	本年度予算	前年度予算	増△減	付記
会議費	15,000	15,000	0	代議員会 他
事務通信費	10,000	10,000	0	封筒 コピー用紙 ボールペン 他
事業費	1,510,000	1,530,000	△20,000	青少年育成費(地区懇談会等) 100,000 女性部活動費 100,000 こぶしの会活動費 70,000 広報紙発行費(支部だより3回分) 170,000 児童育成費(笠子連宍戸小支部活動) 50,000 視察研修費(3回実施分) 60,000 体育費(宍戸小三世代交流事業) 60,000 研修会参加補助費 5,000 在宅福祉費(配食12回分) 355,000 高齢者補助費(高齢者クラブ) 50,000 区長会活動助成費 50,000 高齢者助成費(ししどサロン他) 150,000 需用費(電話・ガス・保険料他) 280,000 備品購入費 10,000
雑費	30,000	30,000	0	
連絡調整費	15,000	10,000	5,000	各事業実施へ向けての連絡経費
予備費	34,718	11,550	23,168	
合計	1,614,718	1,606,550	8,168	

※高齢者助成費(グラウンドゴルフ大会 春・秋開催 ししどサロン経費を含む)

支部委員

- 支部委員 横手 千尋 上町
塩畑 敏之 中町
柳林 進 下町
橋本 薫 橋爪一区
武井喜美治 橋爪二区
大根 静雄 矢野下上郷
富田 道夫 大古山
荒井正次(ベリオリオ) 南小泉一
武田 貞明 南小泉二
會澤 勝 南小泉三
中村 章一 南小泉三
海老澤勝男 下加賀田
村上 勉 旧陣屋一区
森田 和美 旧陣屋二区
小坂井芳威 旧陣屋三区
三浦 昇 小人町
樋口 隆史 八反山
上沼 隆 星山
谷田部敏男 大田町一
庄司 博光 大田町二
国谷 昭 松山団地一
谷 貞夫 松山団地二
塚本 吉信 松山団地三
藤島 和則 松山南団地
石川 敏之(豊松山) アート
鈴木 和夫 八幡下
所 一(ひばりヶ丘) 団地
郡司 弘(大古山) クラウン

女性部

- 部長 和田 博美 松山団地二
副部長 小菅 栄子 中町
藤木喜代子 大田町二
松田満寿美 大田町一
土屋 時枝 松山団地二
西村 安美 下町

青少年健全育成委員会

- 委員長 雨谷 高市 旧陣屋二区
副委員長 森田 和美 旧陣屋二区
関 令子 橋爪二区

こぶしの会

- 委員長 羽生 力 松山南団地
副委員長 山中 一義 南小泉一

広報委員会

- 委員長 山本 弘子 大田町二
副委員長 小川 福子 旧陣屋一区

民生委員児童委員協議会

- 民生・児童委員 上沼 隆 星山
桑島 裕子 橋爪一区
武田 富雄 南小泉二
石井 昌子(ひばりヶ丘) 団地
幾浦 正道 旧陣屋二区
青野 民男 旧陣屋三区
齊藤 隆 大田町一
村上 一郎 大田町二
原田 功 松山団地二
芥川 麗子 松山団地三
岩田 幸雄 八幡下

お知らせ

- 1 社協会員募集の頃となりました。誰もが幸せに暮らせるために、会費の納入にご協力をお願いします。
2 子どもから高齢者まで安心安全に暮らせるまちづくりを目指して「地区懇談会」を6月23日から開催します。地域や家庭で困っていることなどありましたらお聞かせ下さい。
3 5月28日に行われた福祉バザーで300,120円の収益がありました。ご協力ありがとうございました。

再びネパールへ



中町 小菅栄子

まちの声・むらの声

海外協力隊としてネパールに赴任していた友人を訪ねるため、友部から二十人でネパールに行つたのは十五年前。学校に行きたくても学校がないことをその時知つた。旅行をきっかけにボランティアサークル「ナマステの会」を結成。学校建設基金や奨学金を送る活動を続けているが近年は国内外の災害支援などもしている。

支援金を作るためにイベント時に模擬店に参加したり、ブルーベリーやゆずジャムを作つて販売したり仲間三十人と続けている。新聞やテレビでネパール地震の報道を耳にするたびに訪問への思いは強くなり、仲間四人と二月に行くことを決めた。義援金と奨学金のほかに笠間の皆さんからいただいたノートやボールペンなどの文房具もいっぱい持参した。

今回の訪問先の小学校は首都カトマンズから車で一時間半、山道を三十分歩いた所にあり、子どもたちや先生、父母から歓迎を受けた。義援金と手みやげを渡すことができた。午後は毎年奨学金を送っているラプグリーンネパール事務所

たずねてみたら No.90

信頼される学校づくり

宍戸小学校長 川又義祐先生



「教育目標と学校経営方針」本校の教育目標である「本気で学び、思いやりの心を持ち、たくましい子どもを育成」を目指して以下の三つの経営方針を設定しました。○子ども一人一人が大切にされ、安心して学習したり生活したりできる学校を目指す。○保護者・地域に信頼され、愛される学校づくりに努める。○教職員が誇りと生き甲斐をもって協働できる学校づくりを推進する。
安心・安全で信頼される学校づくりに努めてまいります。
「宍戸小学校に赴任して」大きな声でさわやかな挨拶や返事ができ、歌声は大きく、掃除も真剣に取り組む。学校行事等でも、集

誇れるふるさと
そよ風広場



大古山 富田道夫

を訪ね奨学生十人とも通訳を交えて交流することができた。市内に建つ世界遺産の寺院などは地震から一年も経つのにレンガは崩れガレキが寄せられたまま、復興にはほど遠いと感じた。僅かな訪問期間だったが、これからの支援活動を続けていこうと再確認できた今回の旅だった。

大古山区は、瀬沼川右岸に開けた農村集落です。江戸時代には幕府天領で、明治初期には宍戸小学校の前身の寺子屋がありました。こんな古い集落には共通の景観

があります。屋敷の周りを竹や杉が覆い、閉鎖的な暗いイメージを醸し出しているのです。長年住んでいると気付きませんが、無気力の象徴と言つてもいいでしょう。そこを児童生徒たちが通学路にしています。竹藪の村を出て竹藪の村に帰ってきます。これでは誇れる郷土意識が芽生えません。そこで平成二十六年夏から工費百六十三万円をかけて環境整備事業に着手しました。集落内の竹や杉を住民ボランティアで伐採し、視界を遮る木々を一掃したのであります。初夏のこの時期、朝六時前には全五十三戸が朝日を浴びるようになりました。

そよ風広場は、その跡地利用として昨秋に着工しました。島田芳博さんという篤志家が出て、瀬沼川べりの伐採地千二百mを無償提供してくれました。地区内三十六戸出資金各一百万円で事業団をつくり、区から二十万円と市からモ

編集委員

- 山本弘子
小川福子
羽生 力
塩畑敏之
長山春江

よろしく
お願いします

前号にお名前が誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
二面「ししどサロン」文中
誤↓南 利秀先生
正↓南 秀利先生